

はくぶつかんの部屋⑥

～喜友名探検隊!!～



～喜友名探検隊!!～

前回のはくぶつかんの部屋では、「教育普及」についてお話ししました。その中で、地域との結びつきを深める、ということを紹介しました。そこで博物館では、平成19年度から「ぎのわんの字展」と題し、毎年市内各字の一つにスポットを当て、歴史や文化を紹介しています。「入門編」から始まり、今年で5回目の開催になります。

今回は、喜友名区自治会 喜友名字誌編集委員会と共催で字喜友名の歴史や文化について紹介します。喜友名には、喜友名貝塚や喜友名東原ヌバタキ遺跡、喜友名グスクという遺跡があり、二千年以上前から喜友名の地には人が住んでいたことがわかります。

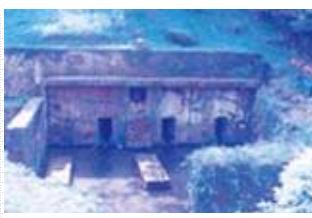
喜友名グスクは集落の北端にあり、石垣がめぐらされ、拝所が五、六か所もあり、背後から集落を守る位置にありました。しかし、戦前の県道工事などによって大半が破壊されてしましました。

喜友名には、バシガーミー・ヒージャーガー・アカンナーラー・カーフワードウフガーナーなどの七カ一と呼ばれる湧泉があり、水量豊富な村で

前回のはくぶつかんの部屋では、「教育普及」についてお話ししました。その中で、地域との結びつきを深める、ということを紹介しました。そこで博物館では、平成19年度から「ぎのわんの字展」と題し、毎年市内各字の一つに

スポットを当て、歴史や文化を紹介しています。「入門編」から始まり、今年で5回目の開催になります。

さてさて…この辺でみなさん喜友名に興味が湧いてきましたか?ここで博物館では、喜友名泉や石獅子についても、もつと詳しく述べたいことはあるのですが、もつと詳しく喜友名を知りたい方は、現在博物館で開催中の「ぎのわんの字展」でシーサーが見守るちゅんな「ムラ」まで是非お越し下さい!もつと面白く、魅惑の喜友名に出会えるはずです。



▲国指定重要文化財「喜友名泉」

▶石獅子
(ナカムトウ前)
シーサー

■ぎのわんの字展
シーサーが見守る「ちゅんなームラ」
♪七泉の恵み・グスク腰当て♪

[会期]2月1日(水)～2月26日(日)
[入館料]無料

お問い合わせ
市立博物館 ☎ 870-9317

茶

ぐわーゆんだく

94

サーターグルマのある風景

戦前の宜野湾村は、人口1万3千人ほどの純農村でした。常食のサツマイモを中心自給自足で野菜の栽培、そして沖縄で主要な換金作物であるサトウキビは特に農家経営には欠かせない作物でした。

サトウキビの収穫は製糖期である旧暦の12月から翌年4月頃まで行われました。収穫されたサトウキビは、嘉手納の製糖工場や普野城製糖工場に運んだり、自家製糖を行っていました。

自家製糖の場合は、各字に何ヵ所かかるサーターキヤー（製糖小屋）で一般的に砂糖組と呼ばれる、共同で製糖を行う組織で作業が行われていましたが、製糖作業は人手のかかる大変な作業でした。

サーターグルマ（製糖車）にサトウキビを1、2本挟み込み、牛や馬の動力によつて回転させ、サトウキビの汁を搾り出します。それからサーターキヤー内の砂糖釜でその搾り汁を何時間、何日もかけて煮詰めます。不純物を除去するために、石灰を加えながら煮詰め、濃縮し固めたものが含蜜糖（黒糖）です。

『字誌ぎのわん』によると製糖作業は一日8人くらいで、朝3時頃から始まり、

夜12時頃まで行つたようです。若者の中

には、その作業の後、モーアシビー（毛遊び）に出掛け、そのまま眠らず、再び遊び）に出掛け、そのまま眠らず、再び

貴重な黒糖を作るため、村や近所の人々、家族がユイマールで助け合いながら農業や作業が成り立っていました。そ

の心を私たちもいつまでも受け継いでいきたいものです。



◀サーターグルマ



製糖風景▶
(市民広場にて)

【宜野湾市史】への問合せ
教育委員会文化課 ☎ 893-44430